

地域課題の一覧等（平成21年10月から平成22年6月まで）

番号	区	初回検討月・会議	その後の検討状況	障害区分	テーマ	事例名	主訴	属性	対応	地域の課題	種別での分類	困難性での分類
1	A区	10月支援チーム	11月区調整会議	重心	退院後の在宅生活の支援	入院先より施設に戻れず退院した女性への支援	退院後、在宅で困っているのでは何とかして欲しい	30代	・入院前にいた施設への再入所で調整	・重い障害のある人を、在宅で支える仕組みがない	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題
2	A区	10月支援チーム	11月区調整会議	知的	知的障害の人の生活支援、金銭管理	触法行為を繰り返す人の一人暮らしの生活支援	触法行為をやめさせたい、金銭管理をしてもらいたい	20代	・触法行為へは毅然とした対応をとる ・職業訓練などを斡旋する	・知的障害のある人への権利擁護体制（含指導体制）の確立	軽度の知的障害のある人の支援	B：社会資源の改善が必要な課題
3	A区	10月支援チーム	11月区調整会議 12月市全体会議 第6回自立支援協議会	重心	保護者の職業訓練中の預かりの場への通所	家族が送迎できなくなり、通所サービスを使えなくなった人への支援	保護者が訓練中の間、本人を介護してくれる場が欲しい	20代	・生活保護の受給など、経済的支援を行う	・通所手段が、家族による送迎に限られている点	移動手段の確保	D：根本的な解決策の見出しが難しい課題
4	A区	11月支援チーム	12月支援チーム	重心	重症心身障害のある人の通所	通所事業所の変更	現在の通所事業所をやめて、他の通所事業所を使いたい	20代	・やめたい理由の確認と利用調整の実施	・家族の理解を得る（説得する）方法	家族の理解	A：調整・連携が必要な課題
5	A区	11月支援チーム	12月支援チーム	知的	通学に困難を抱える子の支援	家族支援の必要なケース	学校までの通学を支援して欲しい、放課後の支援をして欲しい（ただし、その前提として経済的に困窮している家族の支援が必要である）	小学生	・学校の近くに引っ越すことで、通学困難を解消する ・福祉サービスの利用を調整する	・家族全体の支援が必要となっている	多問題家族	A：調整・連携が必要な課題
6	A区	11月支援チーム	12月支援チーム	身体・知的	相互に依存体質となった本人とその子	重複障害を持ち、家族問題も抱えた地域で暮らす人たちへの支援	息子（知的障害あり）に自分の介護をしてもらいたい、息子と同居したい	50代	・同居を前提とするが、経済面などではあくまで独立したものとする ・本人については、地域の見守り体制を活用する	・単独で暮らす、高齢の障害のある人への見守り体制	見守り体制の確保	B：社会資源の改善が必要な課題
7	A区	1月支援チーム		身体	障害特性に関する家族の理解	障害特性に合った支援を早期に受ける必要のある視覚障害のある人への支援	退院後の生活を何とかしたい	50代	・サービスの利用について正しく御理解いただいた上で、計画を立てていく	・障害に関する家族の理解と支援 ・視覚障害に関する早期リハビリ体制の確保	家族の理解	A：調整・連携が必要な課題
8	A区	1月支援チーム		知的	保護者の介護負担軽減	介護負担の重い母と知的障害の子（本人）への支援	親子で離れる時間が欲しい	小学生	・短期入所の利用を調整	・医療行為はないが、比較的重い知的障害のある子の受入れの場の確保（本人は当初、重心施設を希望）	受入れの場の確保	B：社会資源の改善が必要な課題
9	A区	1月支援チーム		知的	施設入所の調整	他市で区分5と判定された人の本市における支援	退院後、施設入所したい	高校生	・入所施設を探すとともに、それまでの間は短期入所を活用する	・他市と本市でのサービス支給の調整・連携（援護実施主体の問題）	関係機関の調整・連携	A：調整・連携が必要な課題

地域課題の一覧等（平成21年10月から平成22年6月まで）

番号	区	初回検討月・会議	その後の検討状況	障害区分	テーマ	事例名	主訴	属性	対応	地域の課題	種別での分類	困難性での分類
10	A区	2月支援チーム	2月区調整会議 3月市全体会議	重心	家族による介護の困難性	母の介護力が低下した重症心身障害のある人への支援	母が病気により介護ができなくなったため、今後の本人の在宅生活を支援して欲しい	20代	・ 現行の福祉サービス利用を継続、父による支援の実施 ・ 入所施設申込み	・ 重い障害のある人を、在宅で支える仕組みがない	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題
11	A区	2月支援チーム	2月区調整会議 3月市全体会議	知的・身体	家族による介護の困難性	母の認知症の進行により、本人の支援が困難になってきている	母と本人の今後の生活について支援して欲しい	50代	・ 本人の福祉サービスについては、利用の方向で調整し、母の理解を得る ・ 母の支援については、地域包括支援センターと連携	・ ある日「発見される」障害のある人への支援（情報に乏しい） ・ 障害に関する家族の理解と支援	関係機関の調整・連携	B：社会資源の改善が必要な課題
12	A区	2月支援チーム	2月区調整会議	身体・精神	精神障害のある人の日中の場の確保	精神障害と身体障害のある人への支援体制	本人「日中通える場が欲しい」 母「仕事に出かけたいが、本人を家に残すのは心配」	30代	・ 医療機関を受診し、服薬を行う ・ 精神の相談支援センターで継続支援	精神障害のある人が、日中に安定して活動できる場の確保	受入れの場の確保	B：社会資源の改善が必要な課題
13	A区	3月支援チーム		身体・知的	家族による介護の困難性	福祉サービスを利用したくない重複障害のある人への支援	介護者である母が倒れたため、今後の本人の生活が不安	60代	・ 福祉サービス利用の方向で調整	・ 今まで福祉サービスを利用してこなかった人を把握する方法 ・ 障害に関する家族の理解と支援	関係機関の調整・連携	B：社会資源の改善が必要な課題
14	A区	3月支援チーム		知的・身体	重心施設への入所	障害の変化により現在の施設の退所を考えている知的障害のある人への支援	摂食障害のため、重心施設に移りたい（現在の施設の退所を余儀なくされる可能性がある）	40代	・ 重心施設の入所待機リストへ搭載 ・ 念のため在宅生活の準備	・ 重心施設の枠の確保 ・ 他の施設での医療的ケアの実施 ・ 重い障害のある人を、在宅で支える仕組みがない	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題
15	A区	3月支援チーム		知的	障害のある子の放課後支援	低学年児童の放課後支援	来年から特別支援学校に通うが、保護者が働いている時間の放課後支援が欲しい	保育園児	・ 児童デイの利用	・ 現状では、障害のある子の放課後を支える仕組みがない	放課後支援	C：新たな事業展開が必要な課題
16	A区	4月支援チーム		重心	重心施設の入所希望あるも、定員一杯	虐待を疑われ、緊急入所を要する重症心身障害のある人への支援	虐待の可能性があるので入所させたい	小学生	・ 入所の方向で調整	・ 緊急時に入所する場所がない	緊急時の対応	C：新たな事業展開が必要な課題
17	A区	4月支援チーム		身体	高次脳機能障害への支援がない	就労希望があるが外出困難難方の支援について	交通事故後遺症で在宅だが、働く場がほしい	20代	・ 自立訓練を紹介 ・ 独自で移動する努力	・ 障害程度は軽い人は、支援ニーズの高い人への支援策が少ない	高次脳機能障害のある人への支援	B：社会資源の改善が必要な課題
18	A区	4月支援チーム		知的	就労の作業能力あるも、人間関係、社会性などに問題あり	就労移行支援事業所の期限が終了後の進路について	区内で就労継続のB型を探して欲しい	20代	・ 就労継続Bの見学	・ 就労移行支援事業所の期限が終わった後の支援	就労支援	A：調整・連携が必要な課題

地域課題の一覧等（平成21年10月から平成22年6月まで）

番号	区	初回検討月・会議	その後の検討状況	障害区分	テーマ	事例名	主訴	属性	対応	地域の課題	種別での分類	困難性での分類
19	A区	5月支援チーム	5月区調整会議	身体	中山間地における支援	山間地のサービスが届いていない障害のある人への支援	どのような障害福祉サービスが使えるか知りたい	20代	・後日、障害福祉サービスの利用申請を予定、その上でサービスを説明	・情報の周知が図られていない ・中山間地における事業者不足	事業者不足	A：調整・連携が必要な課題
20	A区	5月支援チーム	5月区調整会議	精神	精神障害のある人の在宅生活	荷物の整理ができない	風呂場のために荷物を整理して、風呂に入りたい	60代	・福祉サービス（家事援助）により、風呂を含めた部屋全体を片付ける予定	・周りは気にしているが、本人はそれほどではない	在宅生活支援	A：調整・連携が必要な課題
21	A区	5月支援チーム	5月区調整会議	知的	触法行為	触法行為のある本人の生活・就労支援	日中活動の場を確保したい	20代	・状況把握を行い、その都度指導を行っていく ・警察等の司法関係に委ねる方法もある	・軽度の知的障害のある人の地域生活を支えるサービスが必要	軽度の知的障害のある人の支援	C：新たな事業展開が必要な課題
22	A区	6月支援チーム	6月市全体会議	重心	短期入所の供給と家族支援	休養目的の短期入所がとれない	短期入所の利用をしたいが、予約がとれない	20代	・短期入所の利用を調整（非常に難しい）	・福祉サービスの利用状況に偏りが出ることがあり、公平な利用調整が必要	在宅生活支援	D：根本的な解決策の見出しが難しい課題
23	A区	6月支援チーム		身体（+てんかん）	金銭管理ができなくなった人の単身生活の維持の可否	機能低下で単身生活がほころび始めた	本人からは「お金の使いすぎ」で困っているというが、明確な支援がない	60代	・権利擁護センターへ繋ぐ	・金銭・食事・服薬管理ができず、体調不良	関係機関の調整・連携	B：社会資源の改善が必要な課題
24	A区	6月支援チーム		精神	精神の体の衰えにより自立生活が難しい家族の支援	日中過ごす場を確保したい	生活介護の事業所を利用したい	60代	・グループホームへ入ることを検討	・精神の母子家庭の生活支援	受入れの場の確保	A：調整・連携が必要な課題
25	A区	6月支援チーム		知的	家族による介護の困難性	家庭での生活を望む本人への支援	自立に向けてケアホームへ入りたい	20代	・まずは生活を安定させるため、移動支援と短期入所を利用	・母の精神的負担の軽減と祖母の生活安定	多問題家族	A：調整・連携が必要な課題
26	B区	10月支援チーム	11月支援チーム 2月区調整会議	知的	金銭管理の問題	知的障害のある兄弟とその家族	金銭等のトラブルを何とかしたい	20代	・成年後見利用で調整 ・警察（生活安全部門）との連携	・軽度の知的障害のある人への支援が少なく、かつ、犯罪に巻き込まれやすい	権利擁護（軽度の知的障害のある人の支援）	C：新たな事業展開が必要な課題
27	B区	10月支援チーム	11月支援チーム 11月区調整会議 12月市全体会議 第6回自立支援協議会	精神	精神障害特有の症状への対応	精神障害のある人への生活支援	ヘルパーと上手な関係を築きたい	30代	・通院先を他県から県内に移す ・子（発達障害）のサービス利用を進め、本人の夫の負担軽減を図る	・精神障害に対応できるヘルパーが少ない	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題

地域課題の一覧等（平成21年10月から平成22年6月まで）

番号	区	初回検討月・会議	その後の検討状況	障害区分	テーマ	事例名	主訴	属性	対応	地域の課題	種別での分類	困難性での分類
28	B区	11月支援チーム	11月区調整会議	知的	施設退所を余儀なくされた人の行き先	行く先のないまま退所させられた人への支援	受け入れてくれる施設を探して欲しい	20代	・精神科病院へ入院し、その後は短期入所で繋いでいる ・県内外の施設をすべて当たっている	・退所情報の共有と早期の支援開始	受入れの場の確保	A：調整・連携が必要な課題
29	B区	12月支援チーム	1月支援チーム	知的	親は高齢、本人はサービス利用なしの問題	多問題家族への支援	支援を必要としているが、拒否している	60代	・本人はグループホームの利用を検討する ・親について、地域包括支援センターと連携して、支援を実施する	・家族の理解をどのように得るか（説得するか） ・地域の見守り体制をどのように整えるか	多問題家族	A：調整・連携が必要な課題
30	B区	12月支援チーム	1月支援チーム 3月支援チーム	身体	脳性まひによる2次障害	脳性まひにより重症化している人への支援	本人は在宅生活を望んでいる（ただし、かなり困難）	50代	・本人が望むものが何かの再確認（コミュニケーション支援のためだけのヘルパー利用は不可能）	・このような場合、在宅生活前提でのサービスの調整はかなり困難	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題
31	B区	1月支援チーム		知的	医療と日中活動の両立	人工透析が必要な本人への日中支援	人工透析を受ける日は、日中活動系事業所へ通えない	20代	・家に近いところの医療機関に変えることを検討	・単にサービスがないのではなく、本人のどのようなニーズを満たせば利用が進むのか、検討する必要がある	移手段の確保	B：社会資源の改善が必要な課題
32	B区	2月支援チーム	2月区調整会議 3月市全体会議 5月支援チーム 6月支援チーム	発達	特異な自閉症に対する支援	自閉症の本人の居場所	本人を見守って欲しい	20代	・医師を交えたカウンセリングの実施 ・インフォーマルなものを含めた、見守り支援の実施	・単純にサービス利用を増やすだけでは、見守り体制は構築できない	見守り体制の確保	A：調整・連携が必要な課題
33	B区	3月支援チーム	5月区調整会議 6月支援チーム	発達	自閉症のある子の進路	進路未定の自閉症の子への支援	進学は困難なので、進路を調整してほしい	中学生	・障害児施設への入所は困難、者みなしも難しい ・在宅での生活を模索する	・制度の狭間に置かれている人（子ども）への支援が求められている	受入れの場の確保	B：社会資源の改善が必要な課題
34	B区	4月支援チーム		知的	ひとり親家庭の放課後支援	他市より転入してきた人への支援	他市では使っていたサービスが使えない（他市は例外で認めていた模様）	小学生	・4月から始まった日中一時放課後支援の利用を提案	・家族の理解を得ながら、サービス調整を図っていくことが求められている	家族の理解	A：調整・連携が必要な課題
35	B区	4月支援チーム		身体	高齢の人の在宅支援	自宅生活での支援	自宅に戻って、一人で生活したい	70代	・入院中に外泊体験を行い、生活能力を評価し、その後の支援を決める	・医療的ケアのある人の在宅生活を支える仕組みが、ほとんどない	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題
36	B区	4月支援チーム	5月区調整会議	精神	精神障害者の迷惑好意への対応	相談窓口めぐりをしている人へ対応	コピーの要望を断ると大声を出して困らせる	50代	・各相談窓口で情報を共有し、一貫した対応をとる ・できないことはできない、と毅然とした対応をとる	・他害（妨害）行為への対応方法	関係機関の調整・連携	A：調整・連携が必要な課題

地域課題の一覧等（平成21年10月から平成22年6月まで）

番号	区	初回検討月・会議	その後の検討状況	障害区分	テーマ	事例名	主訴	属性	対応	地域の課題	種別での分類	困難性での分類
37	B区	5月支援チーム	5月区調整会議	知的	障害福祉サービスの量と介護保険との連携	ダウン症の子と認知症の高齢の親との暮らしの支援	子は、もうしばらくは親と暮らしたい	30代	・支援課に増量を申請中	・障害福祉サービスと介護保険のサービスの連携が難しい	関係機関の調整・連携	B：社会資源の改善が必要な課題
38	B区	5月支援チーム		難病	難病の人への支援	難病を患う人への支援	外出したい、ヘルパーを使いたい	30代	・家庭内のバリアフリー化など、できるところから改善を図る	・制度の狭間に置かれている人（難病）への移動支援は難しい	移動手段の確保	D：根本的な解決策の見出しが難しい課題
39	C区	10月支援チーム		知的・身体（+てんかん）	高齢の叔母と障害の本人の支援	家族全員が支援を必要とするケース	通所事業所を退所になったが、生活に不安があるため見守りをしたい	30代	・てんかんの症状確認と使えるサービスの確認、本人の権利擁護を図る	・地域からの支援を受けられず孤立してしまっている家族への支援方法	多問題家族	A：調整・連携が必要な課題
40	C区	11月支援チーム	11月区調整会議	知的	知的障害のある人の消費生活	ローン返済について、消費生活センターと連携したケース	ローン返済を何とかしたい	20代	・消費生活センターと連携し、ローン解約（契約解除）を行う	・軽度の知的障害のある人の権利を守る支援メニューが必要	軽度の知的障害のある人の支援	C：新たな事業展開が必要な課題
41	C区	11月支援チーム	11月区調整会議 3月支援チーム	知的	当事者のみの生活の困難性	介護者不在の姉と本人への支援	姉からの権利侵害を解決したい	60代	・日常生活自立支援事業（権利擁護）の利用を図る	・本人たちの生活を見守る人がいない	キーパーソン不在	B：社会資源の改善が必要な課題
42	C区	12月支援チーム	12月全体会議 第6回自立支援協議会	知的	強度行動障害のある子どもの支援	強度行動障害のある子どもの登下校支援	親だけでは登下校の対応はできない	高校生	・学校側と協力して、パニックを起こさないように努める ・福祉有償運送の活用を検討する	・強度行動障害に対応するサービスが少ない ・強度行動障害のある子ども通学について、通学手段をこの責任で確保するのが明確ではない	強度行動障害	C：新たな事業展開が必要な課題
43	C区	12月支援チーム		知的	本人と親との関係	日常生活自立支援事業の活用について	親に収入を管理されているが、何に使われているのかがよく分からない	20代	・日常生活自立支援事業（権利擁護）を利用する方向で、家族と話し合う。	・家族への指導助言体制が必要である（家族の権利意識が、必ずしも十分ではないため）	権利擁護（軽度の知的障害のある人の支援）	A：調整・連携が必要な課題
44	C区	1月支援チーム		知的	引きこもりの人への支援	在宅生活の本人の将来について	高校卒業後、家にこもったままであり、将来が不安である	20代	・外部の人間を家に呼び、普段と違う環境を作る ・日中活動系事業所の利用を勧める	・引きこもりに対する支援メニューがあまりない	受入れの場の確保	C：新たな事業展開が必要な課題
45	C区	1月支援チーム		知的	本人と親との関係	本人の健康状態と日中活動の場について	健康状態の確認と今後の親子の生活支援をしてもらいたい	30代	・保健師同行で健康状態を確認する ・通所事業所の利用を勧める	・本人たちの金銭面について、支援してくれる人を探さなければならない	キーパーソン不在	A：調整・連携が必要な課題

地域課題の一覧等（平成21年10月から平成22年6月まで）

番号	区	初回検討月・会議	その後の検討状況	障害区分	テーマ	事例名	主訴	属性	対応	地域の課題	種別での分類	困難性での分類
46	C区	2月支援チーム	2月区調整会議	身体	退院後の在宅生活の支援	身体障害のある人の生活支援について	退院に当たり、今後の生活について相談したい（できれば就労したい）	40代	・リハビリにて訓練を行う	・リハビリは順調だが、移動手段が限られるため、就労はかなり困難	移動手段の確保	B：社会資源の改善が必要な課題
47	C区	2月支援チーム	2月区調整会議 3月市全体会議	知的	引きこもりの人への支援	引きこもりがちな本人への今後の支援方法について	引きこもりのような状態になってしまい、将来が心配	20代	・福祉サービスの利用も拒否的なため、まずは信頼関係構築を目指す	・引きこもりに対する支援メニューがあまりない	受入れの場の確保	C：新たな事業展開が必要な課題
48	C区	3月支援チーム		重心	重症心身障害のある人の通所	重症心身障害のある人の通所支援について	親が入院後、本人の送迎が困難になった	20代	・通所施設独自の送迎の回数を増やしてもらう ・身体介護の利用を増やし、親の負担を軽減する	・重心の子への支援は、家族にその多くを委ねられており、地域で支える仕組みが少ない	移動手段の確保	C：新たな事業展開が必要な課題
49	C区	4月支援チーム		難病	難病の人の地域生活	難病の人の生活支援について	退院後の生活を支援して欲しい	40代	・訪問看護・訪問介護の組合せで支援していく	・医療的ケアが必要な場合は、その対応の多くが家族に委ねられてしまっており、家族不在時のサービス利用が困難となってしまう	在宅生活支援	C：新たな事業展開が必要な課題
50	C区	5月支援チーム	5月区調整会議	知的	触法の軽度知的障害者への支援のなさ	触法の心配がある軽度知的障害者の生活支援について	今後の本人への対応について（日中活動の場の確保など）	20代	・元担任、コーディネーターで家庭訪問	・家族が本人の犯罪を恐れるがあまり、外に出したくないことへの対応が必要	軽度の知的障害のある人の支援	C：新たな事業展開が必要な課題
51	C区	6月支援チーム	6月区調整会議	知的	軽度の知的障害のある人への支援不足	退院後も再発リスクのある方の地域生活支援について	退院後も自宅で暮らしたい	40代	・非定型審査会にて支給量増の審査 ・地域との連携	関係機関の連携では限界あるので、非定型審査会への申請を検討	在宅生活支援	B：社会資源の改善が必要な課題
52	C区	6月支援チーム	6月区調整会議 6月市全体会議	知的	家族による権利侵害	判断能力ない人への支援	家族に本人名義のローンを組まれた	20代	・権利擁護センターとの連携	権利侵害への対応と軽度知的障害のある人への支援	権利擁護（軽度の知的障害のある人の支援）	C：新たな事業展開が必要な課題